

誰にでもわかりやすい伝え方

誤解や混乱を避けるために、説明や指示を伝える必要があります。
特に発達障害などのコミュニケーションが苦手な方には丁寧に伝えましょう。
ポイントは、「ゆっくり」「ていねいに」「くりかえし」です。

良い対応の例

- ・「この椅子にすわってください」
- ・「トイレは入り口を出て右側にあります」
- ・「食事の配給はあと5分です」

具体的な物や場所を指し示しながら伝えると
なお良いです。

NG対応

- ⇒「そっちはダメ！」
- ⇒「あっちにある」
- ⇒「あと少し」

×抽象的な言い方はわ
からない

視覚的な工夫をするとスムーズに理解できます。

- ・メモに書いたり、絵や図を用いる。
- ・行ってはいけないところや触ってはいけないものに「×」をつける。

その他の配慮したいポイント

- 複雑な会話やたくさんを一度に伝えると混乱を招くので、簡潔に伝えましょう。
- 一斉放送は聞き取れないことがあるので、個別の声かけが良いでしょう。
- 特に大事な説明は、ざわざわした所ではなく静かな場所が良いでしょう。
- 感覚の特徴から食べられないものや触れないものがあります（特に発達障害者）。

家族の方に、配慮すべき点やかかわり方などを尋ねるのも良いでしょう。また、配慮が必要な方を抱えている家族もストレスは高くなりますので、家族へのサポートも忘れないようにしましょう。

